



事業実施結果概要

事業実施結果概要①

<p>連携団体名</p>	<p>事業主体者：株式会社Rehab for JAPAN、共創パートナー：稲沢市、あま市、大府市、(株)ジェネラス、(株)メディケアコロボ</p>																
<p>本事業で狙うターゲット</p>	<p>愛知県内の65歳以上の高齢者数1,950千人が対象。 なかでも特にフレイル、プレフレイル状態の虚弱高齢者約1,000千人（要支援・要介護含む）がターゲット</p>																
<p>解決すべき課題</p>	<p>フレイル予防に向けて「介護予防運動教室」は非常に有意義な取り組み。ただしその一方で、対面での開催が前提のため提供機会や内容に限界があり、その結果として高齢者が日常的に運動する機会を増やせないジレンマがある。 [参加者の課題] 地域住民の参加率、継続率が低い、利用者が固定化 [提供側の課題] 体制確保が大変で、開催場所や開催頻度の拡充が困難、有効性の評価が足りていない</p>																
<p>課題を解決することにより期待される効果</p>	<p>自治体の介護予防事業の取り組みに、<u>オンライン・AIを一部取り入れた「ハイブリッド介護予防教室」</u>を実施。介護予防運動教室の「新規参加者増加」「参加率向上」「継続率向上」と「高齢者への介護予防支援体制の強化」「運用コスト抑制」に寄与。</p>																
<p>本実証事業における検証目的・内容</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p>【検証目的】 自治体での介護予防事業の枠組みとして、受け入れ可能なモデルかどうか</p> <p>【検証内容】 参加者：満足度・継続意向・運動定着度の調査 サービス提供側：運用体制の評価（問題なく運営ができたかなど） 自治体：次年度以降の取り組みに対する評価（予算・運</p> </div> <div style="width: 35%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>社会実装に向けたロードマップ</p> <p>今年度の最大のKPIは、「自治体の介護予防の枠組みにおいて、ハイブリッド型モデルが受け入れ可能かどうか」の検証。その実績を踏まえて、2026年度以降に検証先自治体の拡大や、より深い利用者アウトカム評価を行いたい。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>Step1</th> <th>Step2</th> <th>Step3</th> </tr> <tr> <th>時期</th> <td>2025年度（今年度）</td> <td>2026年度</td> <td>2027年度以降</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検証ポイント</td> <td>自治体での介護予防事業の枠組みとして、受け入れ可能なモデルかどうか ・参加者に対するアンケート調査（満足度、継続意向、運動定着度） ・身体機能の改善アウトカム ・実施運用が問題なく行えるか？ ・コストの抑制に繋がりそうか？</td> <td>左記に加えて、利用者に対するアウトカム検証 ・自治体での介護予防事業での実施件数を拡大 ・フレイル・介護予防に寄与する身体機能指標の改善が認められるか？</td> <td>左記に加えて、中期アウトカムにむけた検証 ・自治体での介護予防事業での実施件数をさらに拡大 ・要介護率の抑制（推定） ・要介護認定率の抑制（推定） ・平均自立期間の延伸（推定）</td> </tr> <tr> <td>事業者/連携先</td> <td>・(株) Rehab for JAPAN ・(株) ジェネラス ・稲沢市、あま市、大府市 ・（アカデミア？）</td> <td>・(株) Rehab for JAPAN ・(株) ジェネラス ・(株) メディケアコロボ ・愛知県内の他市町村自治体 ・アカデミア</td> <td>・(株) Rehab for JAPAN ・(株) ジェネラス ・(株) メディケアコロボ ・愛知県内の他市町村自治体 ・アカデミア</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>		Step1	Step2	Step3	時期	2025年度（今年度）	2026年度	2027年度以降	検証ポイント	自治体での介護予防事業の枠組みとして、受け入れ可能なモデルかどうか ・参加者に対するアンケート調査（満足度、継続意向、運動定着度） ・身体機能の改善アウトカム ・実施運用が問題なく行えるか？ ・コストの抑制に繋がりそうか？	左記に加えて、利用者に対するアウトカム検証 ・自治体での介護予防事業での実施件数を拡大 ・フレイル・介護予防に寄与する身体機能指標の改善が認められるか？	左記に加えて、中期アウトカムにむけた検証 ・自治体での介護予防事業での実施件数をさらに拡大 ・要介護率の抑制（推定） ・要介護認定率の抑制（推定） ・平均自立期間の延伸（推定）	事業者/連携先	・(株) Rehab for JAPAN ・(株) ジェネラス ・稲沢市、あま市、大府市 ・（アカデミア？）	・(株) Rehab for JAPAN ・(株) ジェネラス ・(株) メディケアコロボ ・愛知県内の他市町村自治体 ・アカデミア	・(株) Rehab for JAPAN ・(株) ジェネラス ・(株) メディケアコロボ ・愛知県内の他市町村自治体 ・アカデミア
	Step1	Step2	Step3														
時期	2025年度（今年度）	2026年度	2027年度以降														
検証ポイント	自治体での介護予防事業の枠組みとして、受け入れ可能なモデルかどうか ・参加者に対するアンケート調査（満足度、継続意向、運動定着度） ・身体機能の改善アウトカム ・実施運用が問題なく行えるか？ ・コストの抑制に繋がりそうか？	左記に加えて、利用者に対するアウトカム検証 ・自治体での介護予防事業での実施件数を拡大 ・フレイル・介護予防に寄与する身体機能指標の改善が認められるか？	左記に加えて、中期アウトカムにむけた検証 ・自治体での介護予防事業での実施件数をさらに拡大 ・要介護率の抑制（推定） ・要介護認定率の抑制（推定） ・平均自立期間の延伸（推定）														
事業者/連携先	・(株) Rehab for JAPAN ・(株) ジェネラス ・稲沢市、あま市、大府市 ・（アカデミア？）	・(株) Rehab for JAPAN ・(株) ジェネラス ・(株) メディケアコロボ ・愛知県内の他市町村自治体 ・アカデミア	・(株) Rehab for JAPAN ・(株) ジェネラス ・(株) メディケアコロボ ・愛知県内の他市町村自治体 ・アカデミア														

事業実施結果概要②

参加者に対するアンケートインタビュー結果	オンライン運動指導	満足度	施設集合型/自宅参加型オンライン共に、「非常に満足」「概ね満足」の回答が全体の約9割を占め肯定的な回答だった。インタビュー結果からも対面と変わらず実施できたことが伺えた。
		良かった点	施設集合型オンラインは画面に映る先生の「足元/手元が見やすい」「先生と対面でも会える」が最も多くどちらも全体の約3割を占める。自宅参加型オンラインは「会場に移動せず気軽に自宅から参加できる」が最も多く全体の約2割強を占め、オンラインならではの利点をあげる方が多かった。
		悪かった点	施設集合型/自宅参加型オンライン共に「特になし」が最も多く全体の6~7割を占める。一方で「画面が小さい」「音が聞こえづらい」など環境面での改善点があることも伺えた。
		タブレット操作	「問題なかった」が最も多く全体の約6割。次いで「マニュアルを見ながらできた」が多く全体の約3割強。自宅から参加した約9割の方が問題なく操作して参加することができた。
		継続意向	施設集合型/自宅参加型共に全体の約9割が参加意向を示している。施設集合型は会場が近くにある必要性、自宅参加型は継続的なタブレットサポートの必要性が伺えた。
	モーションAI	事前事後評価	5回立ち座りはスコア・秒数ともに改善。片脚立位は若干下がって入るものの、多くの方のFRSは維持している状況。
		意識/行動の変化	「自身の身体の状態を知るきっかけになり参考になった」が最も多く全体の約2割。実際に「日常生活でも身体を動かす機会を増やした」と回答する方が、全体の約2割弱存在し、実際に行動変容につながっていることが伺えた。

事業実施結果概要②

サービス提供者との振り返り (ジェネラス)	運動指導面	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラム・指導方法を工夫し、オンラインならではの特性を踏まえて全体的にサービスを提供することができた。 ● 自宅参加型はリスク（転倒等）があるメニューは提供せず対面で実施するなど棲み分けて提供を行う。 ● オンライン運動指導時のメニューやプログラム構成（コミュニケーション方法含む）は今後用意した上で展開すれば再現性は作れる。
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ● 実証実験時は大きなトラブルなく問題なく運営ができた。PC操作や会場設営に慣れていない方向けには初期段階でサポートは必要。3～4回程度経験すれば自立的に運営できそう。 ● 通信トラブルや体調不良者が出た場合の緊急時対応フローはマニュアルを準備する。 ● オンライン・対面それぞれで実施できる運動メニューもあり参加者の社会参加の目的も含めて今後もハイブリット開催であることが望ましい。
メディケアコラボとの振り返り	自治体への提案/ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ● メディケアコラボが接点のある自治体の中で、健康イベントなど趣旨に合う取組予定がある自治体へ提案・ヒアリングを実施。13自治体と面会し、2自治体とのオンライン運動指導の取り組みが決定。8自治体は協議中 ● 検討にあたり新たな取り組みであるが故に自治体側のイメージが沸かず参加者の反応が読みづらいといった障壁がある。実証実験の事例を含め自治体側が判断しやすい様なコンテンツや体験できる機会が今後より必要になってくると考える。
実証協力自治体との振り返り	意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体側としても想像以上に参加者がオンラインに適用しており楽しそうに参加していたとコメント。 ● 「運動機会の拡大」「移動が困難な住民への介護予防」「新規参加者の増加」「事業の取り組み成果の把握」等の課題に対してオンライン・AIを活用したフレイル予防インフラの導入可能性について意見交換を実施。 ● 自治体の課題や実情に合わせた形で具体的な開催回数、機材・スタッフを含めた運営体制などについて早速協議ができた自治体も存在したが、別自治体では課題・介護予防施策の優先順位付けや予算化に向けた必要事項など、社会実装に向けて寄り添い伴走していく必要があることも伺えた。

事業実施結果概要③

実証を通して見えた課題・示唆	全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自治体への本格導入には、自治体側の構造的な課題とハードルがあることがより明確になった。 ● ハードルを超え、課題を突破するためには、高い課題意識、強力なリーダーシップで協働してくれる自治体（首長&市職員）の発掘と、中央省庁や広域自治体からのさらなる（金銭的な）支援、そして、アカデミアとの連携が不可欠。引き続き、さらなるエビデンス創出とエポックメイキングな事例をつくっていきたい。
	教室の参加者募集 集客手法の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護予防教室の参加者募集が超アナログ。開催ごとに都度選定。委託先を超えて共有できない。 ● 自治体は教室参加者をユニーク（固有、一意）で捕捉できておらず、非参加者にリーチできない ● 結果として教室の頻度・回数を増やすことも、特定の積極的な市民への告知に終始してしまう。
	介護予防に関する 予算編成の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 組織の縦割りにより、目的がかぶる事業との整合性を横断的にとれない（保険と一体型実施など） ● 現状の何かの予算を減らさないと新しい取り組みがやれない。成果よりも制度枠組みを意識。 ● 定期的な人事異動もあり、担当が過去経緯が把握仕切れないゆえ、現状を変えることすら難しい
	環境整備 体制の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 公民館等の開催場所に通信環境の整備やモニター、タブレット等のIT機材設置がされていない ● 貸出モデルを用意したとしても、その受け渡し、設置業務や保管管理責任に対する躊躇がある ● サロン実施を自主的ボランティアに依存しているがゆえに、市から半強制的な依頼ができない



介護に関わるすべての人に、夢と感動を。